

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

February 2020 vol.70

February						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

ほんかくじ ◆ 本覚寺

所在地：知多市八幡杉山

交通：名鉄常滑線「朝倉」駅 南東 約 1.5km

知多市は伊勢湾に面する知多半島の西側、東海市と常滑市の中間に位置し、新舞子のブルーサンビーチが有名です。昭和 34（1959）年の伊勢湾台風では、台風が伊勢湾の西側を通過したことから強い南南東の風が伊勢湾に向かって吹き込み、猛烈な高潮となり、知多市（当時は知多町）でも大きな被害が出ています。

知多市では、前線の影響で 9 月 23 日昼頃から雨が降り始め、26 日夜中過ぎまで降り続き、総雨量は 200mm 以上、また、瞬間最大風速は 55m を記録し、10 分間平均の最大風速は 40m を超えました。この強い南南東の風による高潮で、知多市でも広い範囲で浸水することとなりました。

当時の「知多広報」には被害の状況として、「判明しただけでも 2 名死亡、流失、全壊、半壊、床上浸水家屋計 1,637 戸」とあり、「八幡小学校講堂大破、新田小学校校舎三教室大破のため使用不能、其の他の学校においてもガラス、瓦の破碎、役場庁舎内天井の落下」など、建物の被害についても報告されています。また、「海岸護岸決壊による復旧見積額約 1 億 1 千万円、農作物、特に米、ミカン類の減収は 1 億円以上」と被害の大きさが訴えられています。

知多市八幡杉山の本覚寺には、伊勢湾台風による犠牲者を慰霊した伊勢湾台風被災者無縁佛之碑があります。この碑は伊勢湾台風から 3 年後の昭和 37



kasen.net HP より

（1962）年 9 月 26 日に建立されたもので、現在は本覚寺の本堂へ至る階段の左手に安置されています。

さて、語り継ぐ東邦学園史（<https://www.toho-gakuen.jp/historytopics/2019/01/2407>）に、当時知多市在住だった東邦高校生のエピソードがあり、知多市の被害状況を垣間見ることができます。「商業科 2 年生だった大堀道之さんの自宅も伊勢湾が目の前に広がる知多市にありました。海辺の家屋は壊滅状態で、大堀さんの家もあと 100 m のところまで水が迫りましたが、かろうじて難を逃れることができました。」大堀さんは台風のと、知多市の自宅から高校（当時は東区赤荻町）まで、自転車で通っていましたが、通学途中の状況について次のように描写されています。

「名古屋市南区に入って大堀さんが見た光景はまさに地獄絵でした。至る所で家屋が流され、家畜の死骸が浮いていました。天白川にかかる千鳥橋の欄干脇は遺体収容所と化し、人間の死体が山積みされていました。大堀さんは自転車をこぎながら、さらに恐怖の体験をしました。後から遺体を山積みした軽自動車が迫って来たのです。あたかも材木を運搬するように死体をひもで縛っているんですが、茶褐色の手足が硬直してはみ出しているんです。狭い道路でしたから、触らないよう思わず後ずさりしました。」活字にしても目をそむけたくないような恐ろしい光景をあらためて認識させられるエピソードです。

その他、知多市の被害の状況については、「知多デジタルミュージアム デジタル写真館 ～知多の記憶～」(<http://jmapps.ne.jp/chitaaichi2/>) でも見ることができます。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆本覚寺の周辺には…

● 慈眼寺 (海嘯記念碑)

所在地：東海市荒尾町峯脇

交通：名鉄常滑線「新日鉄前」駅 北東 約 400m

この碑は明治 22 (1889) 年の高潮による被害を受けて建立された石碑です。



このときの高潮では、堤防の決壊、海水の侵入などにより、小舟等の漂着、浸水被害が発生しています。

● 村木常夜灯跡

所在地：知多郡東浦町森岡前田 交通：JR 武豊線「尾張森岡」駅 東 約 400m

村木常夜灯は、旧津島神社への献灯、村中安全などを願って、旧大洗街道沿いに建立されていましたが、昭和 19 (1944) 年昭和東南海地震の際に倒壊しました。平成 19 年 3 月に、史跡として再建されています。



● 佐布里池

所在地：知多市佐布里

交通：知多バス「梅の館口」停 東 約 500m

佐布里池は、愛知用水から名古屋南部臨海工業地帯に工業用水を供給するための調整池です。

この佐布里池の堤体について、南海トラフ地震等の大規模地震を対象とした耐震診断の結果、液状化による堤体の沈下や変形が生じる可能性が示唆されており、2019 年 1 月より耐震補強工事が行われています。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>)をご覧ください。

★ 大智院の馬頭観音大祭

知多市南粕谷の大智院は、聖徳太子の開基による真言宗智山派の寺院で、太子が残したと伝えられる本尊の聖観世音菩薩、前立の馬頭観世音菩薩のほか、めがねをかけた弘法様、めがね弘法が有名です。

大智院では、毎年 2 月 18 日に馬頭観音大祭が開催され、参拝客で大いに賑わいます。大祭では、開運出世・厄難消滅・家内安全・商売繁盛などの加持祈祷のほか、福升の供養（焚きあげ）や富くじ、餅投げなどが行われます。



Aichi Now HP より

境内には使用済みめがねやコンタクトレンズを納める「めがね塚」もあり、毎年 10 月には、眼病平癒や健眼長寿を祈念するお祭りとして、めがね弘法大祭も行われています。

あいちの農産物

養父早生たまねぎ (知多早生たまねぎ) は、東海市や知多市で昭和



愛知県園芸農産課 HP より

20 年頃から栽培されているたまねぎで、あいちの伝統野菜に選定されています。

形は平型、扁平で、たまねぎ特有の香りや辛みが少なく、柔らかくて甘みが強いため、サラダに向いています。表皮が黄色であることから、黄たまねぎに分類されます。旬は 2 月から 3 月にかけての時期です。

● ブレイクタイム ●

♪ 尾張万歳

万歳は、お正月に家々を回って家内の健康や繁栄を願う日本古来の招福芸で、知多では大勢で演じる、にぎやかで庶民的な「尾張万歳」が受け継がれてきました。上方の「漫才」のルーツも尾張万歳で、かつて、関西から多くの芸人がこの地方で学び「ボケとツッコミ」という漫才のスタイルを確立したとのことで、「漫才」は吉本興業が「万歳」をもとにネーミングしたものです。

3 月に開催される佐布里池梅まつりでも、知多の伝統芸能として披露されます。



ちょうどいいまち知多 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaian2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 令和 2 年 2 月)